

# 菊谷 栄（きくや・さかえ）

## 1、プロフィール

劇作家。エノケン（榎本健一）の新カジノ、ついでピエル・ブリアント（P・B）に参加、レビュー脚本、まげもの、与太者および六大学シリーズで大当たりした。

<生没>

1902(明治 35)年 11 月 26 日 ~ 1937(昭和 12)年 11 月 9 日

<代表作>

戯曲「パリの与太者」「民謡六大学」「最後の伝令」

<青森との関わり>

東津軽郡油川村大浜（現青森市）生まれ。

## 2、作家解説

本名は栄蔵。明治 42 年油川尋常小学校入学。大正 4 年青森中学校入学。大正 10 年上京、川端画塾に通いながら日本大学文学科（芸術学）入学。同大学在学中、多くの戯曲を習作、各種の演劇を見る。卒論は「歌舞伎と動物」。この頃二科会、帝展に入選せず懐疑的となる。昭和 4 年淡谷、竹内らの青森劇研究会の舞台を手伝う。在京の学生らの秋田雨雀を中心とした研究会「日曜会」に参加。翌年エノケンの新カジノフォーリーに舞台装置で参加、その年カジノの解散後榎本健一と共にプペ・ダンスントに参加。同文芸部にサトウハチロー、菊田一夫がいた。

昭和 6 年郷里の文芸誌「座標」に随筆「朗らかなインチキ味」を発表。11 月プペ・ダンスント解散後、ピエール・ブリアント（P・B）がオペラ館で旗揚げ、それに参加。

従来、検閲対策として劇団員佐藤文雄の名を借りていたが、初めて菊谷栄の筆名を使い、専属披露公演で「リオリタ」を創作、評判をとった。

9年P・Bが新宿に進出、「坂本龍馬」の他「パリの与太者」「ピカデリーの与太者」など与太者シリーズを発表。10年P・Bが大阪に進出、さらに「ヤンキー若様」等の作品を次々に発表、「民謡六大学」が大ヒットし、1カ月半の長期興行となった。

昭和13年五所川原の「西北新報」に「エノケンと僕」を連載。脚本「南は大空」・「弥次喜多、奥羽街道」などを上演、また、大学シリーズ「流行歌六大学」が好評を博す。昭和12年「水戸黄門漫遊記」「アルセーヌ・ルパン」「ジャズ六大学」を発表したが、7月黄痘で倒れ休養。9月兵役召集を受け、P・B座員が品川で見送る。

11月9日中国南和で戦闘中に撃たれ戦死。12月雑誌「新喜劇」が追悼号を刊行。

昭和44年帝国劇場で、菊田一夫作「浅草交響楽」に、栄の作品「最後の伝令」が劇中劇の形で挿入される。

### 3、資料紹介

○「麒麟のゐる風景」

原稿

1933(昭和8)年10月23日

255mm×180mm(400字詰原稿用紙袋綴)

タイトルの上に「小喜劇」と冠し、サブタイトルとして、「又はチョウタラウとたか子」を付す。1幕もので、上野動物園を舞台とし、麒麟のいる金網の前で繰り広げられる人間喜劇を描く。